

## 播種時の気象に注意し、排水対策の徹底を！

### 1 排水対策

○出芽不良の要因で多いのが出芽時の酸素不足です。酸素不足で出芽した大豆は、生育不良となり減収するため、排水対策を徹底してください。

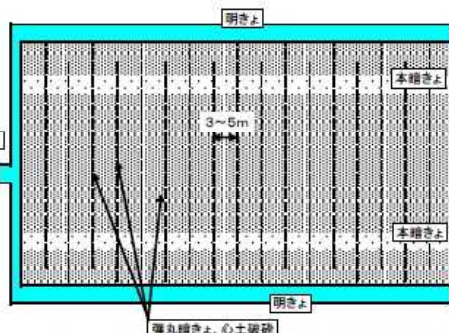
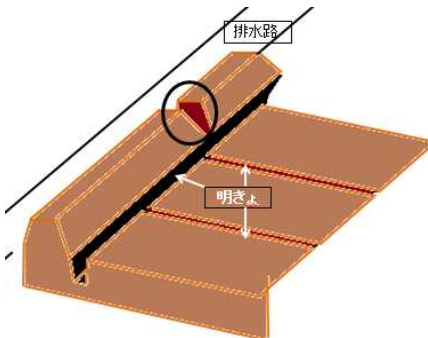


図1 明きよ施行による排水対策

図2 排水対策(明きよ、弾丸暗きよ)の施工例

○近年は短期間に集中的な降雨となる気象が多発していることから、播種から生育期間をとおして湿害を回避するため、上図を参考にほ場の排水対策を徹底してください。

○排水促進のため、額縁明きよは必ずほ場外の排水路につなげてください。降雨が続くと予想される場合は、天候が回復するまで待ってから播種を行ってください。

### 2 種子予措

○紫斑病等の種子伝染性病害の発生防止や発芽率を向上させるため、種子更新は必ず行ってください。

○紫斑病の種子消毒にはクルーザーMAXXを使用します。クルーザーMAXXは、鳥害に対する忌避効果がある他、生育初期の病虫害(茎疫病、黒根腐病、タネバエ等)の同時防除が可能です(表1)。乾燥種子1kgに対して規定量の8ml(原液)を播種直前に塗抹処理します。

表1 種子粉衣・塗抹剤の対象病虫害

	キヒゲン	キヒゲンR-2 フロアブル	クルーザー FS30	クルーザー MAXX
紫斑病、茎疫病 黒根腐病				●
タネバエ ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ アブラムシ類			●	●
ハト	●	●		●
キジバト				●

※根粒菌を使用する場合は、上記薬剤の処理後、最後に処理します。

### 3 播種

○安定生産のためには、栽植本数を確保することが重要です。播種時期が遅くなる場合は株間を狭くするなど播種量が多くなるよう調整します(表2)。

○播種の深さは3cm程度を目標としますが、播種後の降雨が期待できない場合は、目標よりやや深めの4~5cm程度とします。

表2 リュウホウの播種時期別の播種量等の目安

播種時期	播種粒数 (粒/10a)	播種量 (kg/10a)	畦間 (cm)	株間 (cm)	播種粒数 (粒/株)
5月下旬~ 6月上旬	13,300~16,800	4.0~5.0	75	16~20	2
			70	17~21	2
6月中旬	17,800~22,200	5.3~6.6	75	12~15	2
			70	13~16	2
			65	14~17	2
6月下旬	25,000~33,300	7.5~10	75	10	2
			70	10~12	2
			65	10~12	2

\*播種量は百粒重を30gとして算出。

### 4 施肥

○根粒が活動するまでに大豆の植物体を大きくするため、連作ほ場では基肥として窒素2~3kg/10a、転換1~2年目のほ場では1kg/10a程度施用します。基肥が多すぎると、過繁茂や根粒活性の低下につながります。

## 5 雑草対策

○雑草は除草剤だけで完全に抑えることは困難です。大豆の生育を促し、大豆の葉がほ場全体を覆って遮光することにより、雑草を抑制することがポイントです。そのため、除草剤と機械除草（中耕）の2段階で除草体系を組み立てましょう。

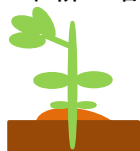
### (1) 大豆土壌処理除草剤の選択性及び使用量

表2 除草剤のリスト（一年生雑草対象の土壌処理剤）

薬剤名	優先して発生する雑草		10 aあたり使用量	
	イネ科雑草	広葉雑草	薬量	水量 (L)
エコトップP乳剤	●	●	500~600 mL	100
クリアターン細粒剤F	●	●	4~5 kg	—
サターンバアロ乳剤	●	●	600~800 mL	70~100
サターンバアロ粒剤	●	●	5~6 kg	—
トレファノサイド乳剤	●	●	200~300 mL	100
トレファノサイド粒剤2.5	●	●	4~5 kg	—
プロールプラス乳剤	●	●	500 mL	100
ラクサー乳剤	●	●	500~600 mL	100
ラッソー乳剤	●	●	400 mL	100
ロロックス	●	●	150 g	70~150
ロロックス粒剤	●	●	5~6 kg	—
コダールS水和剤	●	●	300 g	100
フルミオWDG	●	●	10 g	100

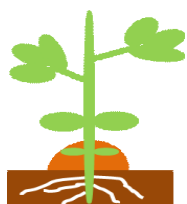
※クリアターン細粒剤Fは、播種直後に使用する。

### (2) 中耕・培土



中 耕

初生葉展開期～本葉1葉期頃に、子葉が隠れない程度に株元にしっかり土を飛ばすよう行う。除草剤の処理層が壊れて効果が無くなるため、雑草の発生が見られない場合は省略可。



培 土

本葉2～3葉期頃に初生葉が隠れない程度に行う。株元までしっかりと土が盛られるようにする。

### (3) 補完体系

(1) 及び (2) の対策で残草した場合、下記から剤を選択し補完する。

○一年生雑草茎葉散布		
パワーガイザー乳剤	(だいず出芽期～1葉期 (雑草発生始期～2葉期))	300 mL/10 a
○イネ科雑草茎葉散布		
ナブ乳剤	(ノビエ3～5葉期)	150~200 mL/10 a
ワンサイドP乳剤	(ノビエ3～5葉期)	75~100 mL/10 a
ポルトフロアブル	(ノビエ3～8葉期)	200~300 mL/10 a
○広葉雑草茎葉散布		
大豆バサグラン液剤	(だいず2～6葉期)	100~150 mL/10 a
アタックショット乳剤	(だいず4～6葉期)	30 mL/10 a

### (4) 難防除帰化雑草について

○つる性の難防除雑草（アレチウリや帰化アサガオ類）は、土壌処理除草剤の散布だけでは効果が不十分であるため、大豆開花期以降まで防除を継続する必要があります。疑わしい雑草が確認された場合は、速やかにJ Aや農業振興普及課にご相談ください。

薬剤については、令和6年度版秋田県農作物病害虫・雑草防除基準より抜粋しています。薬剤の使用にあたっては、使用量や使用時期などを必ず確認してください。

\* 内容についてのお問い合わせは、農業振興普及課（Tel 0186-62-1835）へご連絡ください。